



第10号
平成23年1月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-541-8268
発行責任者
中島 敏行

めでたく
「藤香会創設一二〇周年記念碑」除幕式を挙行

昨平成二十二年十月十二日崇福寺黒田家墓所で、待望の「記念碑」が除幕されました。秋草が整然と刈上げられた式典会場には紅白の幔幕が張られ、祝賀ムードで来賓を迎えました。参加者七十五名。高曇りながら秋空の下、純白の布から黒御影の石碑が顕れると、静寂を破るように拍手が起りました。



除幕の一瞬



藤香会名誉顧問 黒田長高様ご夫妻をお迎えして

記念碑の建立は、福岡藩歴代の藩主に対する報恩感謝と藤香会の来し方一二〇年を想起して新たな出発を期すという趣意が込められています。定刻午前十一時開式に先立ち、黒田節の曲の流れる中、如水公の墓前で献花の儀。式は左の次第で、木下正理事が進行役を務めました。

報恩御焼香

- 一、開式
- 一、導師出仕 崇福寺住職 岩月海洞老師
- 一、読経
- 一、祭文 藤香会 山崎 拓会長
- 一、祝辞 福岡市博物館 西健一郎館長
- 一、読経
- 一、焼香
- 一、導師退出
- 記念碑除幕
- 一、挨拶 黒田家当主 黒田 長高様
- 一、記念碑除幕
- 一、四方払 長岡 鎮廣師
- 一、筑前琵琶 中村 旭園師
- 一、祝電
- 一、挨拶 山崎 拓会長
- 一、閉式 中島敏行副会長

儀式は厳粛に執り行われ、予定時間の十一時三十分に終了しました。

式が終わると、来場者たちは碑の周りで写真撮影などをしてしばし喜びを分かち合いました。

長政公三三八回忌ご法要

昨年は周年事業との関係で、藤香会の恒例行事のいくつかが変則的な実施となりました。夏の墓所清掃は八月一日、草刈機二台の応援をうけて、藤香会の役員を中心に二六人が奮闘しました。また八月四日の長政公のご命日も、セミしぐれのなか崇福寺本堂で役員のみのご法要となりました。

除幕式を前に黒田家墓所掃除

彼岸までの猛暑が過ぎ去り、やっと秋の様相を呈してきた九月二十六日、崇福寺黒田家墓所の草刈りと清掃を行いました。

今回は、四二人のボランティアの方々とは藤香会の会員五八人、合わせてちょうど二〇〇人が汗を流しました。

ボランティアの方が持ち寄られた草刈機も八台に達し、それまでの草刈りでは手の行き届かなかったところまで、きれいになりました。

秋の気配を感じるとはいえ、まだまだ暑く、小一時間もすると、皆さんの上着も汗でびしょりという状態になりました。小さな子どもさんからご年配の方、今まで毎回参加していただいている方、今回初めての参加の方など、慣れない作業ながら楽しい交流の場となりました。

またボランティアの方からは、この行事を広く知らせてほしいという要望もいただきました。今の福岡の基礎をつくられた黒田藩歴代藩主を知っていただくためにも、このような墓所清掃や藩主のご法要などの行事を広く知らせる必要を痛感しました。(天本)



除幕式を前に

「記念碑」施工者に

感謝状贈呈

「藤香会創立二二〇周年記念碑」は、福岡藩歴代藩主のご遺徳の顕彰と、藤香会の長い歩みの記念塔として建てられた碑(いしぶみ)です。この建碑事業は、多くの人々の理解と協力があったからこそ成し遂げられたのです。なかでも厳しい条件のもとに施工を請けてもらった國松石材株式会社は、藤香会の理念とあゆみをよく理解され、このたびの記念事業に献身的な協力を惜しまれませんでした。

藤香会では早速、國松石材にお礼の敬意として感謝状を贈ることにしました。

感謝状は、十一月十八日住吉神社参集殿で開催された藤香会理事会の席で、公務のため欠席の山崎拓会長に代わって、中島副会長から國松石材の國松良康代表取締役へ渡されました。

「長政公はかく語りき」

福岡市博物館展覧会から

福岡市博物館の展示室の一つに「黒田記念室」があります。ここでは福岡・博多を中心に旧福岡藩領、つまり旧筑前の国全域の歴史資料が、バラエティに富んだテーマで毎年、年間展示スケジュールに組み込まれています。

昨年は、十月五日〜十一月二十一日まで長政公の名言を集めて、「長政公はかく語りき」のテーマで展覧会がありましたので、その一部を紹介しま



黒田長政公 (福岡市博物館「解説シート」から) 展示されている長政公の書状、覚書などの古文書はいわゆるお家

流の書体です。ここでの紹介は、現代語訳とその解説になります。

〈長政公が残された言葉〉

1. 嗣子忠之公と養育係に対して
一、読書は「論語」と「和漢朗詠集」をマスターすべし
一、今の時代は表面的な行儀正しさが大事なり。気が合わなくても幕府の聞こえがよい人とは付き合うべし
一、如水の良いところを真似るのは無理。悪いところは見習わないようにすべし
2. 家臣に対して
一、見えない部分は節約すべし
一、モノの売買は相場をよく見極めるべし。但し、大豆は別
一、訴訟は三回欠席したら、理があっても負けとすべし
一、もてなしは簡素にすべし。酒の強要も無用

会場の解説書にはおよそ次のことが書かれていました。

長政公は父如水公と異なり、勇猛な武将として知られています。しかし、長政公が家臣やわが子忠之公に宛てた手紙を見ていくと、また違った人物像が浮かび上がってきます。

たとえば、手紙には「相場」という言葉がよく出てきます。金、銀、米から建築資材の材木や網の相場まで気をつけて損失がないように売買するように具体的に指示しています。ここからは財政に気を配る緻密な藩経営者としての姿が見えてきます。

また、教育熱心だった長政公は幼い忠之公に何をさせるべきか、事細かに指示を出しています。読書のほかに、乗馬に励むこと、毎日鷹狩り

会員クリック⑨



藤香会と私

藤香会会員 太田 和孝

私は陶工として多くの皆さま方に支えられて生きてきましたが、昨年七十歳で太田窯を長男富隆に継がせることにしました。

親子三代で作陶を競っておりましたが、私の父は九十一歳で「陶工石碑」に墨跡を残し、おとし九十六歳で、黒田家とのご縁に感謝しながら昨年亡くなりました。

藤香会との出会いは運命的なわけがありました。小石原焼は、福岡藩三代藩主の黒田光之公が、天和二年(一六八二)に、小石原村中野に窯を開かれたのが始まりです。その窯跡が平成二年の発掘調査で、私の所有地で発見されたのです。

私は黒田家と先人陶工に深く感謝し、この

窯跡を守るために「手をつなぐ会」を発足させました。毎年、春と秋に「古窯跡祭り」を行い、平成十五年には黒田家十五代当主黒田長久様をお迎えして「中野焼開窯三二〇周年記念碑」を除幕し、五年後の開窯三二五年祭には第十六代の長高様をお迎えすることができました。

博多の、弘法大師開基の東長寺には光之公のお墓があります。私は中野焼と太田家を守っていたために、窯跡の近くに大師石像を建てて東長寺に開眼法要をお願いしました。

また、三二〇周年記念樹として長久様に紅の桜、三二五年の記念樹には長高様に白の桜をお手植えしていただきました。私はいま「日本さくら会」の指導で、この二本の桜から苗を作り、全国に配る計画をしています。

このほかにも二十余年、福祉活動も続けていますが、私は「人生寒椿」の詩が好きで、いつも人の為、世の為に役立つ人生でありたいと念じております。

●編集後記●

藤香会は二二〇年、この広報紙「たより」は五年のあゆみです。まだまだ赤子です。ミニミニながら、多くの人の協力を得ています。

今年もよろしくお願います。

そこで早速ですが、お願いがあります。長政公のご命日のご祝いを発見したのです。長政公の没年月日は、「黒田家譜」に「元和九年閏八月四日」と記述されています。もちろん旧暦です。ところが、歴史辞典や歴史人物事典、百科事典などを引いても「閏八月」の「閏」が落ちています。おもしろい例は、ある日本歴史人物事典に「1623.8.29」と出ていることです。これは元和九年八月四日を新暦に直したものです。「日本暦日便覧」で正しく「閏八月四日」を新暦に直せば、「九月二十八日」です。閏があるとなじみでは、ほぼ一か月の違いがあります。

もし、事典などで、黒田長政公の没月日を「閏八月四日」と書いてあるものがあたら教えていただけませんか。(平田)



陽光を浴びて 福寿草